

主な内容

- 第59期通常総代会開催
- 令和8年度事業方針及び事業計画
- 栄えある受賞おめでとうございます
- 新入会員のご紹介

真空チャンバー・真空配管の加工が得意な町工場

SJ ステンレスジョイント株式会社



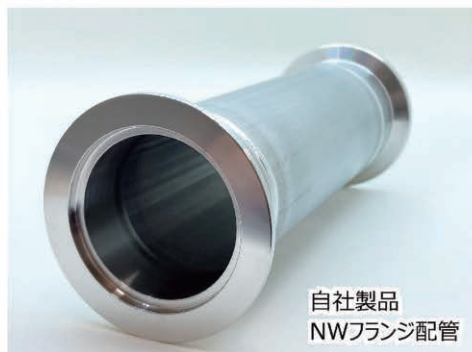
製作事例
宇宙背景放射観測装置用真空チャンバー



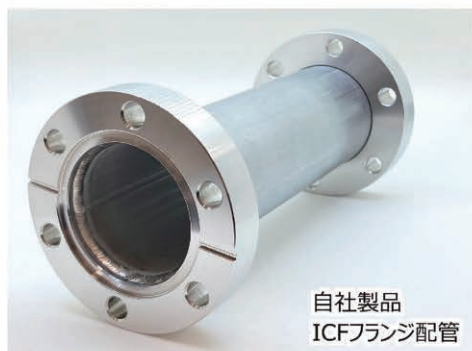
製作事例
宇宙空間熱試験用高真空チャンバー



製作事例
宇宙環境試験装置用超高真空チャンバー



自社製品
NWフランジ配管



自社製品
ICFフランジ配管



自社製品
扉付き角型高真空チャンバー

ステンレスジョイント 株式会社

【代表者】平岡 雄策

【所在地】〒660-0087

尼崎市平左衛門町18-37

【TEL】06-6412-1121

【FAX】06-6412-1123

【資本金】1,200万円

【従業員】19名

【創業】昭和50年

【URL】<https://stainlessjoint.jp>

【事業内容】ステンレス真空チャンバー、真空配管、溶接、機械加工



代表取締役
平岡 雄策 氏

今回は、兵庫県尼崎市平左衛門町にあるステンレスジョイント株式会社を訪問した。同社は昭和50年、大阪市淀川区で現社長の父である平岡勝重氏がステンレス配管のろう付け用継手やフラックスの開発・販売業として創業。当時はまだ珍しかったステンレス継手の分野で、業界団体と連携しながら事業をスタートさせた。その後、一時は仕事が少ない時期もあったことから下請け業務を始め、技術を磨いてきた。現在の代表である平岡雄策氏は、コンサルティング会社に勤めた後、2009年に入社。3年先に入社していた兄が現場を



▲本社工場



▲20代社員と70代の社員がペアとなり作業。技術継承をしている。

担う一方、平岡氏は経営や仕組みづくりを担当してきた。2017年、31歳で代表に就任。入社後はまず効率化・電子化を進め2015年にはホームページを開設し、SEO対策にも注力。「何でもやる会社」から脱却し、自社の強みを明確にするため“真空分野”へ特化していった。現在、同社が得意とするのは、精密なステンレス溶接や機械加工による真空機器製作。高い精度が求められる真空配管や真空チャンバーを製造しており、放射線・宇宙関連分野などでも活用されている。

「売上より働きやすさ」を重視した改革

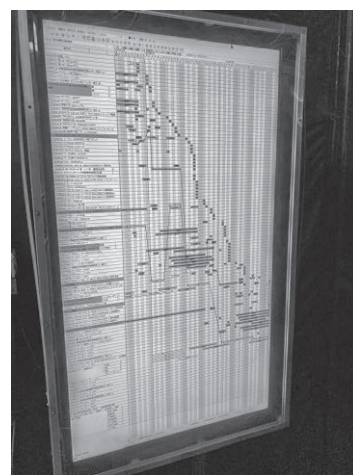
平岡社長が代表就任後、特に力を入れたのが労働環境の改善だ。入社当時、年間休日はわずか90日。仕事中心の毎日に疲弊する社員も少なくなかったという。そこで2018年に年間休日を15日増加。さらに2025年には5日増やし、現在は年間115日となった。休日を増やした分も給与は減額をせず昇給とした。先代時代は「売上重視」の経営方針で、利益を度外視した受注も多かった。しかし平岡氏は、赤字案件を少しずつ見直し、利益率を維持しながら働き方改革を進



▲全員に配布されているタブレット

めた。結果として、会社としての健全性は向上したという。また、業界で長く続いていた約束手形も廃止。社員が安心して働ける環境づくりを進めている。

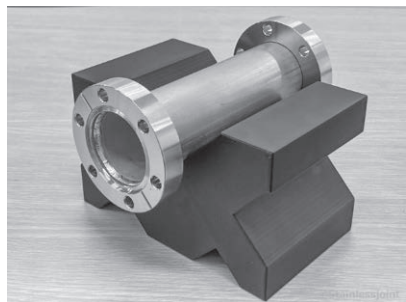
社長就任後のもう一つの大きな改革が、IT化だった。社員全員にタブレットを配布し、社内コミュニケーションにはSlackを導入。有給休暇も社員が自由に取得しやすい仕組みへ変更した。材料発注などの連絡もタブレットで行えるようにし、情報共有の効率化を推進している。平岡社長は「声の大きい人が正しい、という職場にはしたくない。若い人も意見を言いやすい環境を作りたい」と語る。工場は技術だけでは成り立たない。“チームワークや働く楽しさ、ITを活用した効率化も必要”という考えのもと、社員一人ひとりが働きやすい職場づくりを目指している。



▲工程管理がひと目でわかるよう
大きな電子画面で掲示

真空機器をネット販売 新たな販路を開拓

コロナ禍では、「何か新しいことができないか」と考え、真空機器をネット販売する「真空屋」というウェブサイトを立ち上げた。真空チャンバーや配管をオンライン上で選択・購入できる仕組みで、配管の長さも1mm単位で指定可能。アルミ製品も取り扱っており、



▲3Dプリンターで製作したヤゲン台

ネット上で真空機器を販売する事例は当時ほとんどなかったという。価格を公開することで見積もりの手間を減らし、ユーザー自身が仕様を選べる点も特徴だ。この取り組みが大きな反響を呼び、JAXAや東京大学など大手研究機関との継続的な取引にもつながった。最近では3Dプリンターも導入し、ヤゲン台の販売も開始。従来は高価だった製品を、より手頃な価格で提供できるようになった。



NWニップル
SUS304 A5052
SUS316L
全長 100~200mm



“ステンレスをもっと身近に”ものづくりブランド「todoro」

平岡社長は2015年、個人事業として金属雑貨ブランド「todoro(トドロ)」も立ち上げた。ブランド名は、高校時代に組んでいたロックバンド「轟(とどろ)」に由来する。「ステンレスを食べて育った」と話す平岡氏は、ステンレスが大好きで“プラチナではなく、ステンレスが選ばれる存在にしたい”という思いから、デザイン性にも徹底的にこだわっている。代表商品の一つが、取り外して洗える菜箸立て「hazure」。試作品のパッキンがないにもかかわらず、水を入れても漏れない精度の高さを伝える動画を、SNSへ動画投稿を行ったところ大きな反響を呼び、贈り物としても人気商品となった。ほかにも、カードサイズの携帯用靴べら「sunoko」、立体四目並べゲーム「kushidango」など、独創的でスタイリッシュな商品を展開。「kushidango」は「五つ星ひょうご」にも認定されている。購入者レビューを奥様と一緒に読む時間が、何より嬉しい瞬間だと平岡社長は話された。



▲五つ星ひょうごと「kushidango」



▲菜箸立て「hazure」



todoro

®

